

<p>【イベント名】 第13回 日本・メキシコ内視鏡カンファレンス</p>	<p>【概要】 今回のカンファレンスでは上堂先生による十二指腸腫瘍の内視鏡的治療について講義が行われた。十二指腸ESDは術後の局所再発の予防に、より効果的だと期待されているが、高率におきる穿孔や緊急外科手術は大きな問題である。上堂先生は、なぜ、いつ、どのように十二指腸腫瘍に対して粘膜切除術やESD、LECSを行うかを説明した。</p>
<p>【期日】 2018.06.20</p>	
<p>【会場】 メキシコ国立医学・栄養センター (メキシコ), 大阪国際がんセンター (日本)</p>	



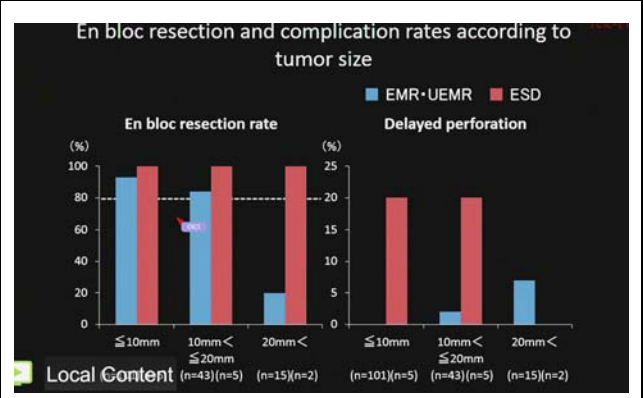
大阪国際がんセンターの様子。  
撮影場所：大阪国際がんセンター



メキシコ国立医学・栄養センターの様子。  
撮影場所：九州大学病院



テレポインターを用いた手術動画の提示。  
撮影場所：九州大学病院



提示されたスライド。  
撮影場所：九州大学病院



大阪国際がんセンターから発表するDr.上堂。  
撮影場所：大阪国際がんセンター



カンファレンスは明るい雰囲気終了した。  
撮影場所：九州大学病院